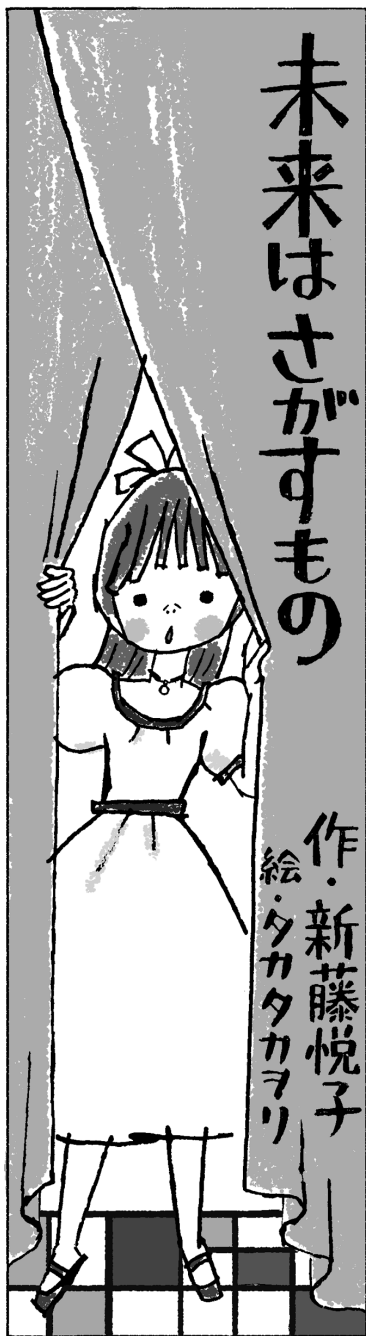


未来はさがすもの

作・新藤悦子
絵・タカタカヨリ



夏休みに入って最初の日曜日は、ピアノの発表会だ。一年生の夏から毎年出て、今年で五回目。演奏する曲はドビュッシーのアラベスク。春には決まっていた、もう何か月も練習してきた。そして、本番はいよいよ明日。今日も午前中からくりかえし弾いている。「パーフェクト」ってママはいうけど、油断できない。だって、毎年練習では完璧なのに、本番では決まって失敗するんだもん。

最初はちょっとしたミスだった。二回目ははっきりとわかるまちがいをして、三回目はつかえた。そんなのはまだマシ、四回目は八小節目で指が止まって、続きをどう弾けばいいかわからなくなった。暗譜していたのに、思いだせない。あわてて楽譜を見ても、あせるばかりで指が追えない。何度も中断しながら、やっとの思いで弾き終えた。

あんな失敗は、二度としたくない。だから今年は、頭が真っ白になっても弾けるくらい練習している。それでも本番では緊張するんだらうなあ。舞台に立つと、どうしてもあがっちゃうんだらう。

お昼はカレーだった。ゆうべの残り。食欲もなくて、半分ぐらい食べてスプーンをおいたところに、いとこの哲ちゃん（てつ）がやってきた。

「お、カレーの匂い！ 夏はやっぱカレーだよね。おばさんのカレー、食べたいと思ってたところなんっすよお」
哲ちゃんは美大の二年生。うちの近所で一人暮らししていて、ご飯時をねらってはやってくる。

「二日目よ」

いい訳しながらもうれしそうに、ママはカレーをよそっ